

早瀬久美 様
山口千春 様

限られた情報で、山口さんはなぜ、
あれだけ多くの情報に"通訳"できるのでしょうか。
熱いお話を、「聴きました」。

驚きました。

7 限は"リアルで"早瀬さんがお話しされているようでした。早瀬さんの手話の動きと表情はとても素敵でしたが、その限られた情報で、山口さんはなぜ、あれだけ多くの情報に"通訳"できるのでしょうか。それが山口さんたる"由縁"なのだとわかりました。引き込まれるように、早瀬さんのお話を「聴きました」。

6 限のゼミで山口さんから、聴覚障害の"見えづらさ"を伺いました。

外からは"わからない"。"わからないように"生活してきた。聞こえないのに、笑ってしまう。他の障害と違う、聴覚障害の"生きづらさ"を、これまで私は、気づかずにいました。いや、気づいていたのに、何もできませんでした。視覚障害の方や身体障害の方には「声かけ」します。どうサポートしたらよいのか、恥ずかしいですが、外からは"わかりづらい"のです。聴覚障害の方は「助けて」と言いつらいのだと理解して、気づいたら、「声をかけます」。その時は、「聞こえないのよ」と「言って」下さい。私を含めて、多くの方は手話ができないので、手ぶりでいいです。

そうしたことが、聴覚障害に対する理解を拓けていくことになればいいなあ、と思います。

デフリンピック。1943年の開催が抜けたようですが(先の大戦の影響と思います)、100年も続いてきた"理由"があるはずです。

6 限のゼミで、山口さんは「アスリートが頑張ってきたから今日がある」、「アスリートが時代を創ってきた」と仰っていました。私は、頑張ってきたのはアスリートだけではない、と思います。やはり、サポートする人たちがいるから、だと思えます。もちろん、「頑張っているアスリートがいるから、サポートもある」のだと思えます。山口さんのお話に熱を感じました。早瀬さん(たち)は幸せだなあ、と感じました。

デフリンピック。大会の"盛り上げ方"についてお話がありました。聴覚障害は"見えづら

い"、外からは"わからない"、ということ発信することがカギではないかと思います。この時代ですから、お金をかけずに発信することは容易です。アスリートたちとサポートする人たちが"一緒に"、ただし"一部のサークル的な集団"と受け取られないように。「聴覚障害、"わかりづらい"でしょ?」、「こんな競技があるんですよ」、「こんな風に競技しているのよ」、「こんな風にサポートしてます」、「こんな風にサポートして下さい」など。

まず「知ってもらう」ことから、ではないでしょうか。広く広く、「助けて」と伝えること。「頑張れの一言で"助けてもらっている"と感ずます」と伝えること。私も、「デフリンピックやるみたいだぜ」と宣伝します。

そうしたことが、聴覚障害に対する理解を拡げていくことになればいいなあ、と思います。

早瀬さんが、デフリンピック 2025 年夏季大会で金メダルを獲得され、山口さんにメダルをかけてあげる。お二人の笑顔が拝見できる日を楽しみにしています。

本日は本当にありがとうございました。

23S2029 中島 薫 (なかじま かおる)
国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究

科 修士課程

医療福祉ジャーナリズム分野 M1